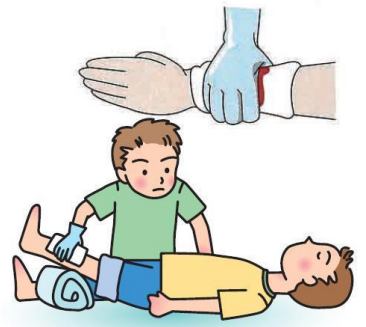


11月 家庭防災の日

怪我などに対する応急措置

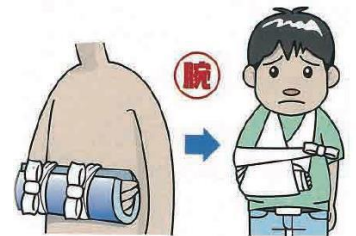
(1) 切り傷などにより出血している場合

- 傷口が土砂などで汚れているときは、なるべく早くきれいな水で十分に洗い流しましょう。
- 出血が多い場合は清潔なガーゼや布でやや強く押さえ、止血しましょう。
- 骨折がないことを確認した上で、傷口は心臓よりも高くしましょう。
- 包帯を巻くときは患部を清潔に保ちましょう。
- じかに血液に触れないよう、ビニール・ゴム手袋やスーパーの袋などを利用しましょう。



(2) 火傷をしている場合

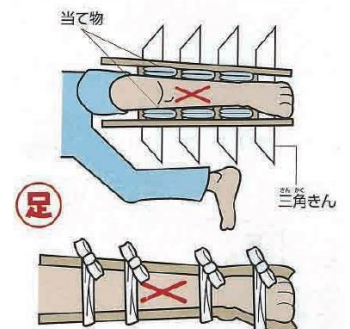
- 流水で患部を冷やしてください。
- 水ぶくれは破らないよう注意しましょう。
- 消毒ガーゼかきれいな布を当て包帯をしましょう。
- やたらと医薬品を使うことはやめましょう。



(3) 骨折している場合

- 出血している場合はその手当てをしましょう。
- 負傷した箇所はあまり動かさないでください。
- 氷あるいは冷湿布などを利用して腫れや痛みをやわらげてください。
- 可能であれば、添え木※を当て、骨折部分の上下を固定します。
- さらに腕の場合は三角巾などで固定します。

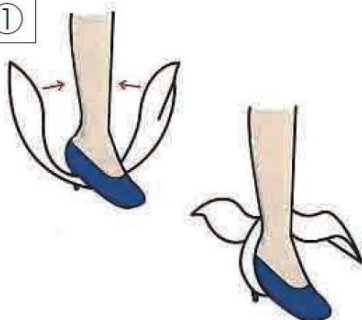
※添え木は、棒や板、傘やダンボールなどで代用できます。



(4) ねんざしている場合

- 氷あるいは冷湿布などを利用して腫れや痛みをやわらげてください。
- 靴は添え木の替わりになるので脱がずに、その上から三角巾や布で固定します。
- 三角巾を棒状にし、中央を足のうらにあて、足首に引き上げて交差させます（手順①参照）。●三角巾の両端を足の甲に回して交差させ、両端をかかとの三角巾の内側に通します（手順②参照）。
- 三角巾の両端を足の甲に回して結びます（手順③参照）。

手順①



手順②



手順③

